

THE WEEKLY NEWS OF EAST KISARAZU



国際ロータリー第 2790 地区
木更津東ロータリークラブ

2019-20 年度

●例会日 毎週水曜日 PM12:30~1:30 ●例会場 オークラアカデミアパークホテル TEL 0438-52-0111
●事務局 木更津市東中央 3-5-2 第2三幸ビル 101 TEL 0438-25-0716 FAX 0438-25-0718

2019-20 年度国際ロータリーテーマ

ロータリーは世界をつなぐ ROTARY CONNECTS THE WORLD

2019 年 8 月 21 日 (水)

第 6 回 例会 NO. 2463

2790 地区ガバナー公式訪問例会



【上総 RC・木更津東 RC・富津シティ RC 合同】

司会進行 林孝二郎 SAA



- ◆点鐘 加藤智生会長
12時30分
- ◆国歌斉唱「君が代」
Rソング「奉仕の理想」
- ◆出席 会員 46 名
出席 38 名・欠席 8 名
- ◆出席率 82.60 %

◆メイクアップ【敬称略】

- ・8/21 ガバナー懇談会 加藤智生 松岡邦佳
近藤直弘
- ・8/21 クラブ協議会 加藤智生 渡邊慎司 松岡邦佳 近藤直弘
大里光夫 山田修平 渡部和夫 大隅義一
内田 稔 渡邊元貴 石田 亨 大岩もえ
大澤藤満 小林千晃 小林裕治 阪中昌司
根本光宏 林孝二郎 塚本秀夫 藤野宏治
堀内正人 吉田和義 宮寺順子

◆前々回出席率 85.71 % 修正後出席率 95.23%

◆欠席者【敬称略】

嶋津正和・齊藤新一・林田謙志・内田 重
鈴木秀幸・田口理紗・藤永範行・鶴岡大治



日本のロータリー100年を
記念した鐘で点鐘されました。

ホームページ <http://ki-east-rotary.ala9.jp>

木更津東ロータリークラブ

会 長 加 藤 智 生
幹 事 藤 永 範 行
編 集 堀 内 正 人

国際ロータリー

RI 会 長 マーク・ダニエル・マローニー
地区ガバナー 諸岡靖彦
ガバナー補佐 小川義則

■ゲスト並びに来訪ロータリアンのご紹介

加藤智生会長より紹介

- ◇2790 地区ガバナー 諸岡靖彦様
- ◇2790 地区幹事長 堀口路加様
- ◇2790 地区ガバナー補佐 小川義則様
- ◇米山奨学生 劉偉君

■各クラブ 会長及びガバナー補佐 挨拶

◇木更津東 RC 加藤智生 会長



本日は大変お忙しい中お越しいただきました諸岡ガバナー、小川ガバナー補佐、誠にありがとうございます。また、上総ロータリークラブの皆様、富津シティロータリークラブの皆様、ようこそお越しいただきました。私は本年度木更津東ロータリークラブの会長を務

めさせていただいております加藤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。本来ですと、設立の順番で会長の挨拶という形だと思っておりますが、開催地ということではじめにご挨拶させていただくことをお許し願いたいと思います。さて、本日の例会は、3クラブ合同のガバナー公式訪問例会です。このガバナー公式訪問は以下の4つの目的があると定義されています。

- ・重要なロータリーの問題に主眼を置き、関心を持たせるため。
- ・弱体あるいは問題のあるクラブに特別な関心を払うため。
- ・ロータリアンに意欲を起こさせ、奉仕活動に参加させるため。
- ・地区内におけるロータリアン個人の卓越した業績を表彰するため。

この4つの目的の他にも様々な目的をもって、諸岡ガバナーは2790地区83クラブすべての会長、幹事、会員の皆様とお話しをされるのですから、本当に大変なことだと思います。心より敬意を表したいと思っております。是非お体には気を付けて頂き2790地区すべてのクラブを滞りなく訪問できることを願ひまして冒頭歓迎のご挨拶に代えさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

◇上総 RC 鳥井正俊 会長



本日は、木更津東・富津シティ・上総 RC 一同に会してのガバナー合同公式訪問であります。諸岡ガバナーには早朝より有り難うございます。又、本日の開催につきましては木更津東 RC の加藤会長、幹事そして事務局の皆様には大変お世話になり、ご苦労をおかけいたしました。有り難うございました。

私ども上総ロータリークラブは、本日会員5名、事務局1名で計6名の出席であります。皆それぞれ、仕事の関係で欠席になっておりますが、皆さんロータリー活動には常日頃より真剣に取り組んでいただいております。さて、私自身も再入会をした会員です。従ってなぜやめたのか、そしてなぜまた再入会をしたのかよく分かっているつもりです。十数年ロータリーから離れておりましたが、仲間が又、誘ってくれました。例会に即出たわけでもなく誘ってくれた仲間の雰囲気非常に良かった。私も、同級生を誘って再入会を致しました。例会の雰囲気が依然在籍していた時代と全く変わってまいりました。皆とのコミュニケーション、奉仕活動、親睦、夫婦での親睦会への参加等、例

会に出席するのが楽しみになりました。例会 100%出席も何回かすることが出来ました。以前にはとても考えられなかったロータリークラブ会長、おまけに2回もやらせて頂くことになりました。これもロータリーに再入会を勧めてくれ、そして上総ロータリークラブの楽しい例会作りをして下さった、先輩ロータリアンのお陰と感謝しております。又、他クラブの方ともたくさん知り合いが出来たことも世間が広がったと思っております。

ただ残念のことは何人かの先輩ロータリアンが退会をしてしまったことであります。しかし、今年度は野村会員(元ガバナー補佐)の紹介で30代の会員が7月より入会してくれたことが励みになっており、また、幹事も若いと、これをチャンスに全会員と協力をして、会員増強に努めていきたいと思っております。今年一年、楽しい、面白い、為になる例会をめざしていく所存であります。

◇富津シティ RC 高木一彦 会長



皆さん、こんにちは。富津シティロータリークラブ2019-20年度会長の高木一彦と申します。一年間よろしく願ひいたします。さて、2019-20年度国際ロータリー会長Rマーク・ダニエル・マローニー氏は『ロータリーは世界をつなぐ』のテーマの下、ロータリーの奉仕を通じて、有能で思慮深く、寛大な人々が手を取り合い、行動を起こすためのつながりを築いて参りましょうと言っております。また、第2790地区2019-20年度ガバナーの諸岡靖彦氏は地区スローガンとして『ロータリーから千葉を元気に』と宣言されました。私もロータリーの礎であるつながりを大事にした運営を心掛けて行きたいと考えております。

そして、元気なクラブ運営には欠かせない会員数の増強・拡大が最重要課題であり、20名体制を目指しクラブ全員で一丸となって取り組むと共に、ロータリー活動の意味をあらためて見つめなおし、「このクラブに入りたい」と思われるような楽しくてやりがいのある活動を構築していこうと考えております。

また、継続事業でありますベトナムの児童養護施設支援、少年野球への支援、そしてHPやSNSを活用したクラブのPRを進めていきますのでよろしくお願いいたします。

◇ガバナー補佐 小川義則 様



皆さんこんにちは、今日の木更津東 RC・上総 RC・富津シティ RC の合同公式訪問に付、色々と準備をして頂きありがとうございます。日本のロータリーも来年は100年になります。まさに今が継承分岐点とも言えるでしょう。諸岡ガバナーの所、成田山、米屋の羊羹屋さんですがなんと創業120年になるそうです。会社と同じで、変えてはならない先代から引き継いだ「理念」など、変えなければいけない方針などロータリー方針は変わってきたけれど、創立時の理念が薄れて来た様な感じをするのは私だけでしょうか。入会の条件がゆるくなっています、その分クラブとしての姿勢が問われるようになりました。

月曜日に君津 RC・袖ヶ浦 RC の合同公式訪問がありました。懇談会で諸岡ガバナーは会長幹事に対して、ロータリー100周年や周年行事には、どんな計画を考えているか等、長期計画をするように指導されました。

ロータリーは単年度で計画を考えがちですが、今回の諸岡ガバナーは今後のクラブの在り方、ロータリーのリーダーを作るよう指導されました。まさに、今後のクラブの在り方を心配されているようです。この後の合同クラブ協議会もよろしくお願いいたします。

■米山奨学生 奨学金授与

◇米山奨学生

劉偉君



■例会アワー

国際ロータリー第 2790 地区 諸岡靖彦ガバナー 「国際ロータリーの現在とこれから」



本年度当地区ガバナーを務めます 諸岡 靖彦 (成田ロータリークラブ) です。本日は国際ロータリーの現況と、来年 10 月に 100 周年を迎えます日本のロータリーの実情についてご報告する同時に、私のロータリーに対する考え方を中心にお話しさせていただきます。

ロータリークラブ (RC) は、その会員であるロータリアンによって

構成され、一方、国際ロータリー (RI) は、RC によって構成されます。ロータリーの創設者 P. Harris (1868~1947) は資本主義社会の勃興期の、商業道徳が忘れられてしまった 1905 年に、米国シカゴの街に信頼と友情の仲間を増やしたいという趣旨で RC を創りました。親睦と相互扶助が初期の目的でしたが、奉仕という目的を加えることによって全米に拡がり、国境を超え、今では 200 以上の国と地域に、クラブ数 3 万 6 千、会員 120 万人を数える世界有数の奉仕目的団体となりました。こうした世界中のクラブの連合体を RI と称しています。ロータリーは職業倫理を重んずる実業人、専門職業人の集まりで、世界に目を開いて幅広い奉仕活動を国際社会に、地域社会に展開しています。

このようにロータリーは奉仕という基本目標の下に、世界中に会員基盤を有し、クラブを、地域を、世界をリードしています。ロータリーの活動を確固たるものにしてゆくためには、一人一人のロータリアンがロータリーを熟知して、私たちが所属するクラブをより効果的なクラブに成長させることが大切です。クラブを構成する一人一人のロータリアンがリーダーシップを身につけ、会員組織を強くして、社会が必要とする奉仕活動を継続させてゆくことがロータリー活動の課題です。

本年度 RI の Mark D. Maloney 会長は、ここ 20 年間の会員総数が 120 万人のレベルで推移していることを停滞と断じました。情報化と交通手段の格段の進展がグローバル化を進め、世界の動きがより早く、狭くなっています。他方で地域紛争が長く尾を引き、経済や通商分野には対立と分断が進み、世界中がバタス感覚を失っています。「あと少し」に迫ったポリア根絶にも、時間とカネがまだ掛かりそうです。マローニー会長は、かつてないほど分断化された世界に繋がりを取り戻すことができるのはロータリーであると断言します。ロータリーはより健康的で、平和で、持続可能な世界に向けた国連とのコミットメントを有し、他の組織には見られない平和と相互理解という精神の下に世界中の人々が繋がるのが出来、目標に向かって意義ある行動を起こすことの出来るイブを有しています。今こそロータリーの出番です。ロータリーの組織としての勢いを回復させ、地域社会や家庭、職域に新しいつながりを創り、世界をつなぐことがロータリーの使命です。こうした背景から、マローニー会長は『ロータリーは世界をつなぐ』ROTARY CONNECTS THE WORLD のテーマを打ち出されました。

私はマローニー会長のテーマを受けて、「ロータリーから千葉を元気に」のスローガンを掲げました。千葉を元気にする

ためには地区内クラブが元気にしなければなりません。私の使命はクラブを鼓舞し、クラブを元気にすることです。地区組織の総力を挙げて、クラブを元気にします。

さて、ご参集のロータリアンの皆様に投げかけてみたい話題があります。皆様ご自身にとってロータリーの魅力とは何でしょう、ロータリーを続けている理由は何だとお思いになるのでしょうか？ 来年 10 月に日本にロータリーが生まれて 100 周年を迎えます。「日本のロータリー 100 周年実行委員会」が一昨年全国の RC に対して意識調査を行いました。この中に日本人ロータリアンの意識を探ることができます。(この詳細は「ロータリーの友」2017 年 11 月号に掲載)

上位 6 番目までの理由を拾ってみますと ①異業種交流ができる ②生涯の友人・仲間ができる ③自己研さんと学習・成長の機会 ④例会が楽しい ⑤奉仕活動ができる ⑥心からの親睦が得られる… となっています。奉仕活動への期待よりも、他人との関わりを大切にしている、という結果でした。皆様の場合はいかがでしょうか？

私の考え方ですが、「出会いの妙」、それがロータリーの魅力の第一です。2010 - 11 年度にクラブ会長を務め、その後地区へ出るようになってから、殊に多様な地区ロータリアンとの交流が楽しみになりました。GND、GN、GE と年々立場がガバナーに近づくにつれて、シニア・リーダーといわれる方々や PDG と接する機会が増えて、様々な人間像、彼らの奉仕活動の体験談、立ち居振舞い、リーダーシップのあり方を垣間見してきました。ロータリアンは対等です。ロータリーの会合では、公式、非公式に関わり合えば対面すればどんな著名な方でも対等なお付き合い、お話を交わすことができます。「ロータリーに No! は無い」とよく言いますが、回ってきた役目はお受けするのが良いと思います。ロータリーを学び、自分の世界を広げるチャンスだと思うべきです。苦手な分野であっても、ポジティブに受け取るべきです。不安な気持ちが準備を進め、問題意識を高めます。例会や奉仕活動では、意識して年代の違う会員、職業分類の全く違う会員との交流が視野を広げ、感性を刺激します。RI の青少年プログラムは年齢層によって設定が変わりますが、IAC、青少年交換、RYLA、RAC に参加しますと、ロータリーファミリーの幅の広さと若い力に教えられます。ものの見方、考え方を何よりもロータリー観が養われます。このほかにもロータリーの世界的ネットワークの凄さ、R 財団や米山奨学会の資金力は奉仕活動にとって、大きな原動力であり、その事業に惚れこめば健全で素直な寄付協力に近づけると思っています。

ロータリーの全体像を絵にして表現すると、どんなことになるでしょうか！『ロータリーの樹』をご覧ください。青木貞雄ガバナー年度の 2016 年の地区大会に RI 会長代理で当地区に派遣された渡辺好政 PDG が RI 理事をお務めの 2006 - 07 年度の頃に持論を展開したというのがこの図表です。樹を育て、森を創る発想は日本人の自然観によく似ています。森を征服して街を切り拓くという西欧人の感性との差が見取れます。土壌 (中核的価値観) があって、根 (R の理念) があるから幹 (R の目的) は育ち、幹を太らせれば枝葉 (五大奉仕活動や 6 つの重点分野) が広がり、陽光を浴びて果実 (R 財団) が実り、全体景観としての R の公共イメージが向上する… というものです。

この『R の樹』から様々なインスピレーションが生まれます。ロータリアンは「個」からスタートして自学 (楽) 自習して、個のリーダーシップを養います。樹を大きく育ててゆくには高潔性という土壌が特に大切です。ロータリーがロータリーであるためには、職業倫理に従って得た経済力が個人の奉仕活動の原動力になるからです。「クラブ」が地域社会に働きかける要件として、クラブが元気でなければ地域に対して健全な提案やリーダーシップが発揮できません。会員基盤を多様化させて、クラブを持続的に盛り上げてゆくことが大切です。クラブの活動計画は奉仕活動も親睦も絆を創るための相互の存在と役割を認め合って、ケツリ活動だけではなく、上位の目的を共有し合うヨウワリのクロス・プロモーションを意識して動かなければなりません。この樹を持続的に、いかに強く育てるかは、戦略計画の課題です。樹を育て、森を如何に創ってゆくかはクラブ会員全体の総意に関わります。全会員の討議で森を創るビジョンを構想してください。ビジョンができれば毎月の、毎年の作業計画を創って、実行してください。

半月後、1年後の実行チェックは欠かすことのできない、次のステップに向かう大事な振返りです。こうして樹が育てばローターの活動はますます意義深くなり、楽しくなることでしょう。

ところで、世界のローターと日本のローターにはギャップが生じている、ということをお聞きになっていませんか？日本のローターが重視する職業奉仕（実は、日本人ローターがこだわっているのは職業「倫理」のようです）は、世界中の何処へ行っても通じないというのです。職業奉仕とは職業上持ち得た専門知識や技能を生かして社会奉仕に貢献することだと、世界は考えているようです。職業奉仕を特別なローターを動かす土台としては考えていないのです。先の規定審議会で RAC を RI の会員として認める件や、例会の欠席補填（メークアップ）を当年度以内とする緩和決定には驚きました。しかしこの狭い日本列島で 2000 年もの永い間、自然神信仰（神道）、仏教、儒教を自発的に「餅をこねるように」創り、武士道や商人道に形成し、実践してきた日本人の思想の風土を考えれば、職業奉仕の重視というスタンスは軽率なポピュリズムよりは遥かに重いものです。日本のローターがガラパゴスとか、周回遅れで走っているという評価はいただけるものではありません。来年に迫った日本のローター 100 周年では、ローターという米国建国期ビュリタンの思想潮流を、日本人の風土、文化になじむよう取り入れてきた社会運動として正しく評価されるべきものだと思います。如何でしょうか。

さて、これからのローターの方向はどうなるのでしょうか？5 月から日本の元号が「令和」と改元されました。明治以降の大正、昭和、平成の 150 年はおよそ 30 年ごとに登り坂と降り坂を交互に経験してきました。平成の 30 年間の日本は、バブルの崩壊以後世界同時不況、大震災や自然災害がつづいて、降り坂の 30 年でした。外に目を向ける産業分野もありましたが、大多数の内向きな日本人は「井の中の蛙」と化しました。政府は内需を高めるために躍起になって財政出動しますが、国の借金が膨らむだけでした。人件費の上昇以上には生産性が目立って改善するわけではなく、低成長（時にはマイナス成長）がつづいています。

令和の時代には、もっと大らかに、日本人が持つ相手に心を寄せる優しさが発揮される時代になって欲しいと思います。そして日本人がもっと国際社会に出て、世界に貢献でき期待したいと思います。そのためには、ローターと同じように、日本人は明確な国家戦略をもつことが必要です。先ごろ経済同友会が発表した『危機感なき茹でガエル日本——過去の延長線上に未来はない——』の、日本再生の処方箋をご紹介します。三次元の図表で表わせば、X 軸＝経済の豊かさの実現、Y 軸＝イノベーションによる未来の開拓、Z 軸＝社会の持続可能性の確保、という社会の、近視眼ではない 30 年、50 年後を見通した構想を基本として、そこに到る道筋を考えなければならぬ、ということです。令和の時代を「敗北と挫折」の平成の 30 年の延長と思うのではなく、危機感を持って、日本人の繊細な感性を生かせる健康長寿、地球環境、持続可能性を構築する分野などで世界のトップを目指すべきです。

1 月のサンディエゴの RI 国際協議会で、GE として GETS に参加したとき、会場の入り口に掲げられていた標語は Join Leaders, Exchange Ideas, Take Action! … 「リーダーを集め、意見を交換し、行動に移せ！」でした。かつそのそれは、Enter to Learn, Go Forth to Serve! … 「入って学び、出でて奉仕せよ」でした。標語が変わったことの意味する所は、RI が戦略計画を構築するための姿勢を示しているものであると理解します。リーダーを集めて、意見を交換して、そして行動する、ということです。これが RI のこれからの行き方です。

以上で「RI の現在とこれから」というお話を終わらせていただきます。ご清聴、ありがとうございました。

点鐘 加藤智生会長 13:30

クラブ協議会



■開会宣言

木更津東 RC 近藤直弘



◇趣旨説明 木更津東 RC
会長 加藤智生

◇発表 表 上総 RC
◇発表 表 木更津東 RC
◇発表 表 富津シティ RC



◇質疑応答



◇山田バストガバナーのお話もありました。

◇講評 2790 地区ガバナー 諸岡靖彦様

■閉会宣言 富津シティ RC 幹事 立石泰之